

昭和の読売新聞神奈川版に見出しとキーワード

ヨミダス歴史館「昭和の地域版」の検索方法を拡充

◆昭和の地域版◆

ヨミダス歴史館は、明治からの読売新聞記事 1,300 万件以上がネットで読めるデータベースです。昨秋、オプション「昭和の地域版」を投入しました。昭和の地域版は、地域版のうち、マイクロフィルムで残っている 1933 年(昭和 8 年)以降の 276 万ページを電子画像としてデータ化したものです。全国紙では初めての試みです。

地域版とは新聞紙面の中で地域の身近な情報を伝えるページです。事件・事故はもちろん、県や市町村の予算、選挙、お祭り、話題のスポット、地元で活躍する人物の横顔など、その街で生活する人が知っておきたい情報が満載です。記者は担当する地域に暮らしながら毎日ニュースを探しています。記者もその街の住民です。そのため、全国版に比べ、読者と記者の距離が近く、暮らしに根ざした記事が多いのも魅力のひとつです。

◆神奈川県版にキーワード◆

「昭和の地域版」は、これまで見出しとキーワードで検索できるのは、東京、千葉、埼玉県版のみでした。そこで今秋、ご要望の多かった神奈川県版の代表版に見出しとキーワードを投入します。

読売新聞横浜支局は1914年(大正3年)8月1日に開設されました。読売新聞初の地方支局です。以来 101 年にわたって、神奈川県内のニュースを追い続けています。昭和の地域版では、このうち 1933 年(昭和8年)5月2日から、2001 年(平成 13 年)9月30日までの約 12 万ページを、当時の紙面そのままの紙面画像で見いただくことができます。



開設時の横浜支局(1914年8月1日付)→

◆郷土を築いた人たち◆



地域版の魅力は郷土に対する愛情です。県内各地に張り巡らした取材網を生かし、きめ細かい情報を届けています。例えば、昭和 26 年(1951 年)6月～7月に掲載された「郷土を築いた人たち」という企画連載では、神奈川の発展に欠かすことができなかった人物を計 25 回にわたって取り上げています。見出しを見るだけでも、「大磯に初の海水浴場 寒村たちまちにして名声馳す」(1951 年 6 月 15 日付)、「大量生産で商品化 貝細工の父 渡辺伝七翁」(同 7 月 4 日付)、「世界の糸相場築く 内妻まで売った相場師 “天下の糸平” 田中平八」(同 7 月 6 日付)と、神奈川の経済や文化の礎を築いた人物を次々に紹介しています。

↑先人への尊敬の念が記事にあふれています (1951 年 6 月 15 日付)

◆地域発展の経過を記録◆

街の発展の経過も詳しくつかむことができます。「2,000,000」という連載は横浜市の人口が200万人になった昭和43年（1968年）4～5月に掲載されました。「全国一の人口増加率」を誇る都市が抱える課題を丹念に描いています。「横浜市郊外の素顔 ふえる“横浜の都民” 納税しても昼間は東京」（4月25日付）、「交通の渋滞チャンピオン 一日、五時間マヒ 高島通り 立体のほか手なし」（同28日付）と、急速な人口増加で様々な問題が出ていたことがうかがえます。

人口が300万人に達した昭和60年（1985年）12月にも「300万横浜の素顔」という連載を始めています。「スシ詰め道路 市バス、渋滞に拍車 場当たり行政 ツケいま重く」（12月5日付）、「足りない遊び場 増える欲求不満児 高すぎる地価 手こまねく市」（同10日付）などを取り上げ、「巨大ないなか町」と酷評されることもあると嘆いています。

ところで、どちらの連載もマンモス校について取り上げています。昭和43年の連載では「深刻な教室不足の悩み 講堂も間仕切り ハイペースで増える児童」（5月2日付）とし、「昨年は、プレハブ教室二教室を建てたがそれでも足りない」小学校を取り上げています。一方、昭和60年の連載では「マンモス校 消えるプレハブ 児童減に転じ 独立校も増え」（12月4日付）と、市内最大のマンモス中でプレハブ教室が不要になったことを伝えています。通学区内に二つの新設校ができることが理由ですが、記事では「増える一方だった市内の児童数は5年前からやっとな減少に転じた」とも書いています。「定点観測」することで、変化を敏感に感じ取っています。



㊤昭和43年の連載 ㊦昭和60年の連載。“定点観測”で見えてくるものがある↑

◆全国ニュースはより詳しく◆

全国ニュースになった記事も地域版なら、さらに詳しく知ることができます。昭和38年（1963年）11月9日に起きた横須賀線鶴見事故は「国鉄と炭鉱・相次ぎ大惨事」という見出しで一面（10日付）に載っています。同じ日に三池炭鉱事故も起きたためです。一方、地域版では紙面のほとんどを横須賀線鶴見事故の報道にあて「血まみれの現場 必死の救出作業 座席もタンカに 走り回る救急車 米兵や寝間着の市民」と現場の様子を生々しく伝えています。

平成11年（1999年）5月20日の川崎公害訴訟和解では、地域版は21日付で「苦節17年、よく頑張った」と原告らの勝利集会の様子を伝え、さらに「街再生への出発」というタイトルで3回の連載を始めています。次世代への継承をどうするか、今後は市役所の手腕が問われることなど、課題を掘り下げた内容になっています。このように全国ニュースも、地域版ではさらに情報量が豊富なので、より深く知ることができます。

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 学術情報商品部
（電話：03-6910-0518、ファクス：03-6420-1359、e-mail：online@kinokuniya.co.jp）までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> にのっとり、取り扱わせていただきます。